

命の尊さ教わりました

稲垣中学校で初の「赤ちゃんふれあい教室」



将来の「イクメン」を目指して



子どもを育てる喜びや大変さを学ぶ



僕もこんな小さかったんだ



赤ちゃん言葉であやす女子生徒



積極的に授乳を体験

工藤千春さんは「練習どおりにはいかなかったけど、お母さん方からいろいろ教わりとても勉強になりました」、佐々木雅さんは「今日の貴重な体験を将来活かします」と感想を発表しました。

この日は市内の赤ちゃんとお母さん18組が参加し、6班に分かれ赤ちゃんとは対面。生徒は、最初は緊張した面持ちで赤ちゃんをおそろのおそろ抱きかかえていましたが、時間が経つにつれ、ミルクを飲ませたり、おもちゃであやしたりするなど将来のパパ、ママを演じていました。

9月15日、稲垣公民館で稲垣中学校3年生49人を対象に「赤ちゃんふれあい教室」が行われました。
稲垣中学校（新戸部一弘校長）では、思春期に命の尊さを肌で感じ、父性、母性を育んでもらおうと同教室を初めて総合学習の一環として取り入れました。生徒は、事前に沐浴人形を使って、赤ちゃんの抱き方や寝かせ方などを保健師から指導を受け、本番に臨みました。



命の重みを実感

参加したお母さんからのメッセージ

福井 由美子さん
(久遠ちゃんのお母さん)

今日の体験を通して家族のひとと、赤ちゃんの頃の思い出や命の大切さについて話し合ってみてください。



秋元 亜美さん
(凜ちゃんのお母さん)

皆さんにもこんな小さな時期があって、お父さん、お母さんが大事に育ててくれたことを忘れないでください。

